

～地域密着の国有林づくりを目指して～ハナノキ里帰りから感じたこと

木曾森林管理署南木曾支署 業務課森林ふれあい係長 ○金^{こん} よしひろ^{よしひろ} 敏博

要 旨

長野県南西部に位置する当支署管内は、暖温帯から高山帯まで幅広い森林帯に属す地理的な環境から地域固有種も多く、国有林内にも多くの希少野生植物が生育しています。

こうした中で、暗中模索しながら地域と一緒に取り組んだハナノキの里帰り植樹イベントを実施した結果から、地域に期待される国有林についての一考察として発表します。

はじめに

阿寺・柿其国有林に希少種ハナノキの大樹が2本自生しています。

台風によりこのハナノキの主枝が折損し、樹勢が弱まり枯損が危惧されたことから「林木遺伝子銀行110番」（林木育種センター）に挿し木苗による増殖を依頼。ハナノキ苗木の里帰りを契機に、平成21年度に関係機関や地域住民が参画して植樹や森林整備、現地検討会及び森林教室等の保護活動を実施しました。

1 ハナノキについて

(1) 特徴



写真-1 阿寺国有林のハナノキ

- ア 恵那山を中心とした半径50kmの範囲内で、長野県南部、岐阜県東濃、愛知県北東部に分布。
- イ 湧水の富む湿地に生育し、環境省・長野県レッドデータ絶滅危惧Ⅱ類に指定。
- ウ 雌と雄に分かれている雌雄異株であり、単木だけでは繁殖ができない。
- エ 昔はヨーロッパにも生育していたが、現在は日本と北アメリカにしか生育していない。
- オ 約400万年前、東海湖の湖岸の丘陵地に自生していたと考えられており、学術的に興味深い樹木

表-1 ハナノキの特徴

(2) 木曽森林管理署南木曽支署内での分布

ハナノキは、南木曽町の柿其国有林と大桑村の阿寺国有林に、民有地においては大桑村役場東部にある鹿子沢に自生しています。(図-1)

ほか、神社や住宅にも生育していますが、過去の文献によれば、今より多くのところにハナノキがあったようです。

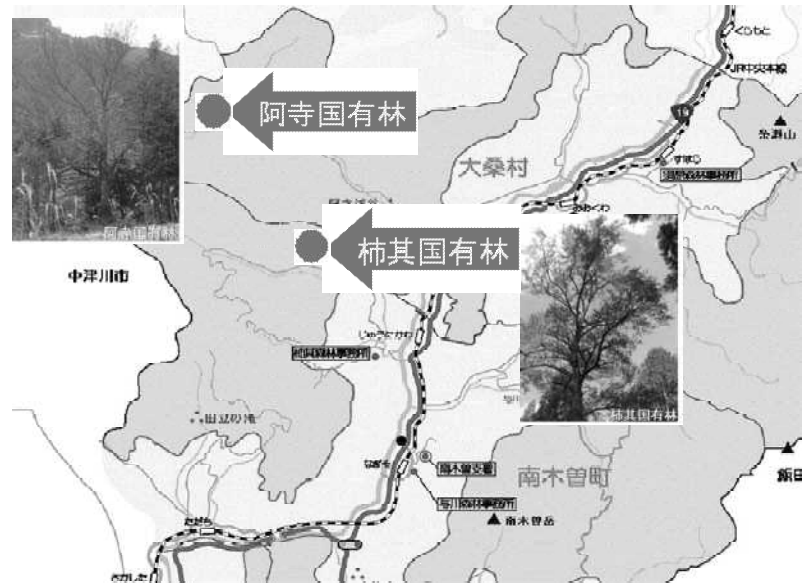


図-1 南木曽支署管内ハナノキ分布箇所

2 取組にあたって

(1) ハナノキ里帰りまでの取組

年 数	内 容
平成16年度	度重なる台風などにより柿其、阿寺国有林にあるハナノキ大樹の枝折れが発生し樹勢が弱まった。
平成17年度	国有林の中で自生しているハナノキ大樹が2本しかいないため、保護と生育環境の保全と、「町の天然記念物にしたい」等、地元から要請もあったことから独立行政法人林木育種センターで行っている「林木遺伝子銀行110番」に登録
平成18～20年度	柿其国有林のハナノキの小枝40本、阿寺国有林のハナノキの小枝40本を採取し、林木育種センターで挿し木による増殖を取り組んでもらった。
平成20年12月	林木育種センターから「クローン苗木里帰り」の連絡 南木曽支署としてどのような活動が出来るのか検討した結果 ア 国有林野事業への理解と協力が得られること イ 希少種が多い地域でもあり、希少種保護を取り入れた森林教室等を実施することにより、地元の森林に対する関心も得られること
平成21年1月	南木曽町、大桑村の担当者に「ハナノキを地元の人と大切に育てていこう」と相談したところ、快諾を得、平成21年度緑化行事を協働して取り組むことを確認。

表-2 ハナノキ里帰りまでの年表

(2) ハナノキ里帰りイベント

ア 学習会

ハナノキについて勉強するため、講師に、飯田市でハナノキの保護活動を行っている「はなのき友の会」会長の北沢あさ子さんを招き、3月9日に大桑村、3月26日に南木曾町において学習会を行い、両町村で約50名が参加しました。(写真-2、3)

講師からは「植えることによって植生が攪乱しないか」「管理していくにはどういうところがベストなのか」「ハナノキやハナノキ周辺の保護について」など、里帰りイベント予定地を踏査しながらの助言を頂



写真-2 大桑村での検討会



写真-3 南木曾町での検討会

くことができました。

参加した地元の方からは「この木が、こんなに大事な木だったんだ」「国有林のハナノキが見られた。見せてくれたことに感謝したい」「しっかりみんなで守っていこう」などの感想も出され、みのりある学習会となりました。

イ ハナノキ里帰り記念植樹

5月15日に南木曾町柿其溪谷において、南木曾町、林木育種センター及び地元柿其地区の皆さん等20名余りが参加し、ハナノキ里帰り記念植樹イベントを実施しました。



里帰り記念植樹

写真-4 ハナノキ苗木の手渡し



記事-1 イベントの新聞記事

(写真-4、記事-1)

あいさつの中で町長などから「柿其溪谷の名勝にもなるので、地元と協力して大切に育てたい」「ハナノキの自生場所には植物の多様性がある。それぞれの植物を大事にしてほしい」などのあいさつがありました。

当日はハナノキの里帰りということもあり、新聞社から取材があり里帰り記念植樹のPRが図られました。

ウ 永遠に輝け阿寺溪谷

6月10日に大桑村阿寺溪谷において大桑村、阿寺ふれあいエコクラブをはじめとするボランティア4団体等35名余りが参加したハナノキ記念植樹を実施しました。

(写真-5、記事-2)

このイベントはハナノキ植樹だけではなく、南木曾支署と地元が協働参加でできることを目的として、参加者が阿寺溪谷周辺歩道の森林整備作業も行いました。

あいさつの中で村長などから「このハナノキの苗木が大木になるまで見続けたい」「このハナノキが地元の観光資源の一つになるのでは」



森林整備作業

写真-5 イベントでの森林整備作業

「ハナノキのある森には多様な植物が残っている。ハナノキとともにそれぞれの植物を大事にしよう」などの言葉を頂きました。

また、この行事についても新聞記事となりました。



記事-2 イベントの新聞記事

エ 各町村との植樹祭等

南木曾支署では南木曾町と大桑村それぞれに春の緑化シーズンにおいて、緑の少年団など200～300人を招いての植樹祭などを共同開催しています。(写真-6)

大桑村合同育樹祭を5月23日に、南木曾町との合同植樹祭は5月28日に行いました。両合同植樹祭などにおいても記念樹としてハナノキを植樹し、大桑村合同育樹祭では支署長から大桑村長にハナノキ苗木の手渡しが行われました。

(写真-7)



大桑村合同育樹祭

写真-6 育樹祭記念植樹



大桑村合同育樹祭

写真-7 支署長から大桑村長へ苗木の手渡し

3 成果と課題

木曽谷でヒノキではなく、ハナノキを植えることの珍しさから、木曽地域にある新聞社の信濃毎日新聞社、中日新聞社、市民タイムス社の3社が取材に訪れ、関心の高さが伺い知ることができました。

(1) 今回実施したイベントの成果について

- ア 各イベントを通じ、南木曽支署の取組に対し、ねぎらいの言葉をいただくと共に、今後の取組みに対し自信に繋がりました。
- イ イベント参加者及び森林ボランティア団体等の植樹や森林整備作業を行うことにより、ハナノキの保護に対する意識を確認する中、保護の取組を地元で行えるきっかけ作りができました。
- ウ 希少種の保護に取り組む森林管理署の姿をPRすることができました。

(2) 稚樹の発生は大きな収穫

今回のイベントのために有識者の皆さんと踏査を行っていたとき

- ア 柿其国有林から新たなハナノキ3本の発見。
 - イ 大樹の周りから稚樹の発生が見られた。
- 自生しているハナノキが少ない中で、大きな収穫となった。

(3) 反省点

- ア ハナノキ苗木里帰りからイベントまでの間が短く、打合せなどが不足し、行事については植樹イベント中心になってしまった。
- イ 植樹したハナノキや発見されたハナノキ稚樹の管理については成長の推移を見守りながら、森林整備を進める観点から周辺環境に配慮した保育や保全などに努めていく。

(4) 今後実施していくこと

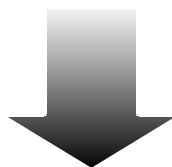
- ア 保護活動…官民および有識者の協働作業による目的の共有化。
 - 「植えたハナノキの保護・管理」という考えでなく、「ハナノキが生育できる環境」や保護活動についての現状や思いなど、よりよい保護活動を行うため、地元や有識者、南木曽支署が一堂に介し目的を共有するなど協働で行う体制が必要。
- イ 学習活動の強化…希少種などの保護を取り入れた森林教室や地域でのボランティア活動を進めるにはハナノキの生態などの知識の習得が不可欠。
 - 有識者を招いた学習活動や、他の地域でも行われている取組の事例を学び自分達に取り入れることが必要。
- ウ 永続的な管理…ハナノキの状況や保護活動の実績を台帳上に記録していくこと。
 - このことが将来の活動に繋がって行きます。併せて、ハナノキの周囲の環境調査を行うことが必要。

4 おわりに

来年度から、ハナノキの管理が本格的に始まっていきます。

(1) 管理については

- ・ ささやかなことでも毎年活動すること。
- ・ 南木曾支署を核として地元、有識者と協働して一緒になって実践していく。



(2) 来年度は

下刈りやつる切、保護看板設置等、保護・管理を通じた森林学習を地元のボランティアの方々と実行することを足掛かりに「将来まで永続的に管理」する決意を固めあう。

(3) 南木曾支署としての地域貢献

地域の要望を「聞いて」、地域と一緒に「取り組み」、地域と一緒に取り組んだ中で「共に喜ぶ」国有林を目指していきたい。